



トビアス・ストーリー (7) お幸せに

これまで6回にわたって、旧約聖書続編トビト記(書)のストーリーを簡単に記してきました。報われなかったように見えるトビトの信仰と善行でしたが、天使ラファエルが、まるで「インマヌエル(神、我らと共におられる)」であったかのように、トビアスに寄り添い、苦難の道を共に歩いてくれました。「可愛い子には旅をさせよ」と言います。また、「地上では旅人」と聖書では言っています。なにより、祈りを聞いてくださる神がおられることを示したお話しです。

トビアスが、純真で、従順で、素直で、鷹揚で、愛情あふれる男の子として、いろいろな絵画に描かれているのは当然です。こんなにたくさんの絵があるのには驚きました。なぜか、少年のような姿が多かったのです。童話の主人公のような可愛らしさです。そして、親子の姿、夫婦の関係を通して、愛し合うことの大切さ、人を大事にすることの大切さを、教訓として教えてくれています。

さて、私が出会ったトビアスさんにお話しを戻しましょう。彼は、私の親族にあたる、ひとりの娘をお嫁さんにするためにドイツから日本にやってきた男性です。二人は教会のプログラムでお互いに知り合い、時間をかけてお付き合いをしてきましたが、最初から、とても気が合って、惹かれあったようです。私の親族の娘は、身内鼻根だと言われるかもしれませんが、サラと同じく、「思慮深く、勇気があり、美しい」娘です。タレントの小雪さん似です。彼女はトビアスさんに会って、将来を共に歩みたいという愛情を感じる事ができたのでしょ

う。素晴らしいカップルになれる！と私は確信しています。二人の上に祝福を祈っています。けれども旅行してなかなか帰ってこない息子をあれだけ心配するトビトとハンナ、また、サラの両親の「娘を悲しませないでください」という言葉。親の気持ちは、時代や場所を超えて、万国共通です。両親の両親の上にも祝福を祈っています。トビト記の物語のように、勇気を持って、愛情あふれる未来を築いて行ってほしいと願っています。

トビアスさんは、「おいら、飛びあす」と言ったかどうかわかりませんが、準備のために、一足先に飛行機で帰られました。



アイコン



婚約式案内状



14c. ステンドグラス